

議案（１）中山間ふるさと・水と土保全対策事業等に関すること

（Ａ委員）

秋田県中山間地域土地改良施設等保全基金（以下、「ふる水基金」という。）に関連するH29 総事業費は 18,498 千円であるが、当初計画はいくらか。

（事務局）

20,438 千円である。

（Ａ委員）

ふる水基金は、当初積み立てた 10 億 6 千万円（H12 時点）を年々取り崩し、現在は 9 億 3 千万円程度の残高となっているようだが、年間の取り崩し限度額は決まっているか。

（事務局）

基金残高の 3 % まで取り崩して活用するよう国から指導がある。

（Ａ委員）

良くやっている地域を一生懸命支援し保全していくのも良いが、優良な取組を全県に広げていくために、今後どういった展開をしていくのか。

（事務局）

活動団体が固定化し、なかなか新しい団体が出てきにくい状況となっていることから、過去 2 カ年以上支援を受けた団体に対する支援をストップしている。

今後は新たに地域活動に取り組む団体の掘り起こしと、その支援に重点置き、且つ、都市農村交流や子どもたちへの体験教育などの重要性を全県に波及しながら事業を展開していく。

（Ｂ委員）

Cool Akita 農泊推進事業で動画を 20 本作っているが、どのくらいの人が見て、それが反響あってどうなったのか。また、グリーン・ツーリズムサポーターは何年間で何人の目標があるか。

（事務局）

動画の再生数やアクセス数は解析していないが、動画やホームページを見て数件問い合わせがあった。

グリーン・ツーリズムサポーターは年間 20 人ずつ認定し、H33 までの 5 年で 100 人認定する計画で、H29 実績は 8 名である。

(B 委員)

なぜ動画の再生回数がわからないのか。

サポーターが H29 に 8 人だとすれば H30 に増やすための研修を増やすなどの工夫はないのか。

(事務局)

本事業は、地域住民が希望を持って住み続けていきたいという農村を作ることが主目的のため、数値で効果を表すのが難しく悩んでいる。例えばサポーターの数でどのような問題点があるのか等について検証していく必要がある。

諸事情のため動画の公開は最近のため閲覧数を調査していないが、どの程度訪問者数を増やすかジャンルごとに確認し、どういうものが一番効果的なものか検証していく。

(B 委員)

作成した動画は順次公開していくのか、それともまとめて公開するのか

(事務局)

動画は委託で製作しており、最終的に編集も終わってから納品されるためスピーディな公開に至っていない。

(B 委員)

Cool Akita 農泊推進事業において、Wi-Fi やクレジットカード決済システムはどこに設置したのか。

(事務局)

大館市の農家民宿と直売所に設置した。

(B 委員)

インバウンドにおける三種の神器は、Wi-Fi とクレジット決済と外国語対応のガイドブックや案内板と言われている。秋田県はインバウンドに力を入れているし、人も増えているし、農家体験もすごく魅力的なツールになると思うので、各部と連携しながら加速的に推し進めて欲しい。

(C委員)

里地里山50のカードの配布場所はどうなっているか。

(事務局)

認定地域にできる限り近いところに設置している。設置施設は公共施設、観光施設等としているが、近傍になれば地域内の商店に置いていただいている。

(C委員)

秋田の里地里山の魅力をPRするために参加した「ハタハタフェスティバル(in 東京)」における首都圏の方々の評価はどうか。

(事務局)

米のオーナー制度の取組や美しい田園風景をアピールし、「この地域で作られたお米を食べてみませんか。」とチラシの配布や生産者による生の声でPRしてきた。「おいしそうだね」と多くの方に立ち寄っていただいた一方で「どこの県でもやっているよね」と厳しい意見もあった。

(C委員)

Cool Akita 農泊推進事業等において支援している地域に偏りを感じるが。

(事務局)

全県すべて頑張ってもらいたいですが、取組の薄い地域にいきなり押しかけるのも難しいので、ターゲットを絞って事業を実施している。そこが成功したら次の地域と、ゆくゆくは全県に広げていきたい。

(C委員)

グリーン・ツーリズムサポーターは元々、外国語を話せる学生等がサポーターになってくれれば良いというところから始まった事業だと思うが、大学との連携をもう少し工夫できないか。学生等が参加しやすい時期を選べば良いのではないか。

(事務局)

指摘を踏まえ、効果的な取組となるよう学校とも相談して実施する。

(A委員)

事業そのものは非常に良いと思うし、行政としてできる範囲のことを一生懸命やっていると思うが、待っていてはだめである。

基金の使い方として例えば、Cool Akita 農泊推進事業であれば、成功している地域に視察に行くために活用するとか、インターネットは今、誰がどこからアクセスしたかわかるので、次の戦略を立てるための分析に活用するとか、秋田の里地里山50認定地域の米をまとめて売っていくような取組に活用するなど成功事例を作っていくことが大事である。

大学生を活用するのは良いが、高校生ももっと関わって良い。

秋田県全体が人口減対策として県内就職を掲げているわけだから、課題よりも魅力である。「ここが素晴らしい」というところをどんどん探していくなど、掘り起こしのために基金を活用できるのではないかな。

新しい取組なのだから拡大していかないといけない。新しい取組にしないと新しいものは出てこない。限られた枠組の中でみんなが実施してしまえばこれ以上出てこない。

(事務局)

人口減対策は県として一番重要な課題である。特に人口減少が著しい中山間地域、農村地帯の人口を維持するため、魅力ある里作りに向けた対策を検討している。

基金には制約があるものの、委員にアドバイスもいただきながら、うまく活用できるよう様々な方策を検討していく。